

令和2年度 第1回川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会 報告書
～新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた今後の地域での活動について～

日時：令和2年8月26日（水）18：00～20：00

場所：ソリッドスクエア地下1階ホール

参加人数：51人



令和2年度第1回目となる今回は、参画団体を102団体に拡充し、グループディスカッションを取り入れた手法での開催となりました。各自の「考え方」や「意見」をグループ内で共有・整理し、最後に全体に向けて発表し内容を共有しました。

市長挨拶

コロナ禍で、医療や福祉等、最前線でご活躍いただいている皆さまに心から敬意と感謝を申し上げたい。地域活動等ができない状況等の長期化により、今まで積み上げてきた顔の見える関係の崩壊を危惧する一方で、ここが頑張りどころだと思っている。本日は「新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた今後の地域での活動」について、皆さんの忌憚のないご意見をいただきたい。

1 川崎市における地域包括ケアシステム構築の取組（地域包括ケア推進室）

（1）地ケアの更なる推進に向けた方向性など

- ・昨年度の取組を踏まえ、今後の取組の視座として①小地域ごとの特性を配慮した施策展開、②分野横断的な施策連携体制の実現、③民間企業なども含めた多様な主体の連携の手法開発、の3つを整理
- ・新型コロナウイルス感染症に対する取組（連絡協議会から医療関係者等の方々に対しエールを発信など）

（2）推進ビジョン第2段階における取組

①意識づくり

- ・連絡協議会への参画団体の拡充による参加者同士の連携可能性の模索、気づきを得られる場づくり
- ・情報交換シートのリスト化、ワーキンググループの設置を検討
- ・戦略的広報の推進（市政だよりの活用、パンフレットの改定、マンガの作成など）

②仕組みづくり

- ・在宅医療の充実と医療・介護連携の強化（入退院支援における連携強化、医療・介護の総合的な連携強化、福祉における医療対応のあり方検討などの実施）
- ・包括的な相談支援の推進（全世代・全対象型の地域リハビリテーション体制構築に向けた総合リハビリテーション推進センターの開設（令和3年4月を予定））

③地域づくり

- ・地区カルテ等を活用した地域マネジメントの推進、地区カルテによる地区概要の市HPでの公表
- ・今後の取組として、小地域単位の地域マネジメントの強化、既存団体の活動支援、住民の幅広い社会参加の促進、生活支援の充実と担い手づくりを検討

2 基調講演「新型コロナウイルス感染症を知る」 川崎市健康安全研究所 岡部信彦氏

ウイルスは細菌と違い単独で増殖はできないので、早急に消毒すれば消滅させることができる。ウイルスには各種の特性に合わせた抗ウイルス剤で対処するが、新型コロナに対する抗ウイルス剤の短期間での生成は困難なので、現在既存の抗ウイルス剤を活用しつつ治験等を実施しながら開発を進めている。

新型コロナウイルス感染症は、発病1～2日前から発病後10日目頃までの期間は、他の人に感染させる可能性がある。インフルエンザなど他の感染症でも発症前から感染させることがあるが、新型コロナウイルス感染症は、発病前の感染していないように見える人から他人に感染させてしまうことが稀でないことが分かってきた。

感染症対策は、感染源の遮断（隔離、消毒、滅菌、駆除等）、感染経路別予防策、予防接種、感染・発症後の治療（抗菌薬、抗ウイルス剤）等、様々な場面で行われる。手洗いは感染経路遮断のために一定の効果があると対照実験により明らかにされている。クラスターを生みやすい曝露の場のキーワードは三密（密閉・密接・密集）であり、3条件が揃う場所においてクラスター発生のリスクが高くなるので、その点に注意しながら日常生活を過ごしていただければと思う。広い空間や戸外等では感染リスクは下がる一方、そのような場面でもしっかりマスクをつけていると、夏場では特に熱中症のリスクも高まるので、特に戸外や風通しが良く十分な身体的距離が確保できる所ではマスクを外し、良い空気を吸うことも健康のために大切である。

また、感染症が流行すると歴史的に差別や偏見が出てしまう。マスクもそうだが「人が優しい」ことで感染症のリスクが低減するとも言える。差別・偏見を止めることの重要性を広く伝えていくべきだと思う。

ディスカッションで話し合いました！～新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた今後の地域での活動について～

市内で活動する保健・医療・福祉関係団体、市民公益活動団体、青少年支援団体、民間企業（金融、不動産、鉄道・運輸、通信、配達、飲食サービス等）、大学等研究機関等、多種多様な団体からの参加者が7のグループに分かれ、互いに交流を深めました。さらにテーマに関する考え方・意見をグループ内で共有・整理した上で、場内全体に向けて各グループで話し合った内容の発表を行いました。主な意見をご紹介します。

Aグループ

- 色々な団体が活動できなくなっていて、グループが潰れてしまったり、健康上の不具合が激増する等の状況の中で、引きこもっている人をどう地域に出していくかがこれからの地域包括ケアには必要
- 行政による健康寿命チェックの取組を各団体からそれぞれの関係者に発信したり、関心を持ってもらえるような小規模イベントを仕掛ける等、各団体と行政が連携して、地域に出てきてもらえるような地域づくりに取り組んでいきたい



Bグループ

- 各業種ならではの感染症対策等
 - ・ガス関係：点検を拒否されるといった問題があり、それに対し点検を外回りのみの実施で対応、ショールームの予約制
 - ・新聞販売関係：熱中症対策（配達時に周囲に人がいなければマスクを外す等）、非現金集金の推進
 - ・介護サービス関係：施設での面会の禁止、イベントの中止、利用者同士のソーシャルディスタンスの確保（サービス内容を減らしてもらう等）、換気・検温の実施等
- 感染症対策も大事だが、免疫力をつけることも大切な予防の一つではないか
- 何もかも中止にするのではなく、対策を十分に行った上でできることにも取り組んでいった方が良いのではないか
- それぞれが感染症対策の発信源になっていくのが良いのではないか



Cグループ

- オンラインシステム等を活用した講座やイベントの実施
- ペンとメッセージカードで安否確認や状況等を確認（民生委員の取組）
- 対象者や状況に応じてアナログとデジタルを使い分けながら社会・地域とのつながりを再確認する段階が来ているのではないか
- 今ピンチではあるが、地域とのつながりについて皆が見つめ直すきっかけにしていこう



Dグループ

- コロナ禍において、差別や誹謗中傷が多い
→皆が今の環境に対して感じているストレスが原因の1つではないか
- 何か共通の目標を作り、皆の中でコロナを乗り切る雰囲気づくりができないか（コロナの影響で使用できない施設や競馬場のスクリーン等を活用した川崎市内のあらゆる場所での映画の同時上映、子どもたちのアート展等）



Eグループ

- コロナ対策における業種ごとの課題の共有（看護師の方については新規の相談が中々取りづらい状況である等）
- 薬局の方からグループ内で手洗いのレクチャーを頂いた
- オンラインを中心にした対策をとっていくと良いのではないか（オンライン診療、オンライン面会、ネットスーパーを軸としたサービスの拡充等）



Fグループ

- 地域での ICT の活用（Zoom を活用した地域での色々な集まりの開催（お茶会等））
- サービス担当者会議でも Zoom 等を活用したいが、導入できていない参加者もいるため、一部でのみ活用して取り組んでいる
- 少しずつできる人から参加していき、地域のつながりを保つことも、今後できるのではないか



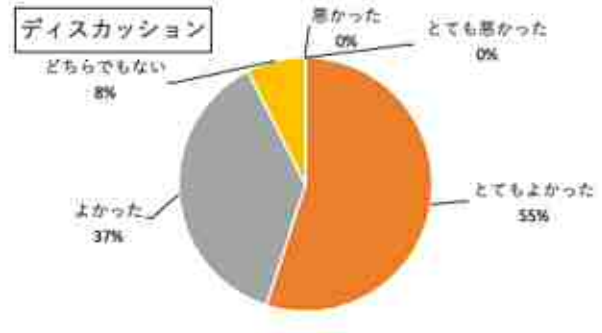
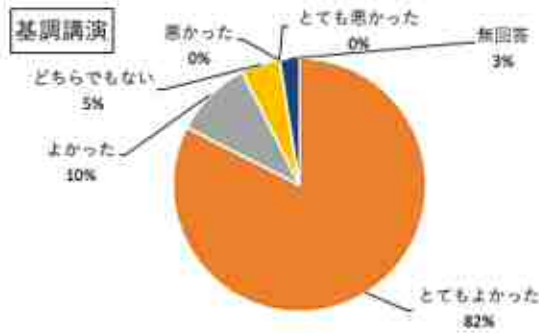
Gグループ

- 地域の方に感染させない、また自分たちが感染をしないために、感染症対策や予防策に注意を払って事業等を進めている
- 民生委員の活動等、事業の中でイベント等については中止する等といった対応が余儀なくされている状況
- 接触は避けるがつながりは切らないということをモットーにした取組（民生委員による手紙を活用した安否確認、金融機関の方々による対象者への定期的な電話連絡やオンラインによる相談体制の確立等）



【参加者のアンケート結果】(n=40)

●今回の連絡協議会のプログラムについて



●基調講演に対する意見・感想等

- ・コロナの最新の知見・状況を分かりやすく知ることができた
- ・何ができるかという視点、地域内での優しさの意識を持てた
- ・専門家からの説明だったので、不安解消に役立った
- ・不安に煽られず、正しい知識、状況判断の大切さを学んだ

●グループディスカッションに対する意見・感想等

- ・様々な職種の力を合わせてできることを増やしていきたい
- ・異業種の貴重な意見、抱えている課題・対策について聞けた
- ・議論によって様々な視点からの考え方があると理解した
- ・地域とのコミュニケーションづくりを行っていききたい
- ・もっと時間がほしい

●今後の連絡協議会で行ってほしい内容等

(1)市内の活動紹介（紹介してほしい分野など）

- ・地域包括ケアと関わるまちづくりの取組
- ・色々な業種の方からの活動紹介、他職種連携
- ・貧困、食支援活動
- ・コロナ禍で工夫して行っている活動
- ・各行政発信のコミュニケーションツール

(2)行政からの活動報告（聞きたい内容など）

- ・一つの事業について詳しく聞きたい
- ・地域みまもり支援センターの活動
- ・企業に望むこと
- ・コミュニケーション後の市民の声
- ・コロナを含む災害対応

(3)ディスカッション（希望するテーマなど）

- ・認知症
- ・新しい生活様式の中での活動について
- ・連絡協議会参画団体による地域住民のために何か形のあることを作り上げていく話し合い
- ・コロナ状況下も含め、緊急時（天災、人災等）において効果的なケアシステムにするためには
- ・今日話した内容が半年後どう変わったか
- ・前もってテーマを教えてほしい

●新型コロナウイルス感染症の状況下で、事業継続に向けて取り組みたいと考えたこと

- ・ICT活用、オンライン面会、会議の活用等
- ・ADL低下の予防（施設内で運動）
- ・介護事業者へのPCR検査の実施検討
- ・様々な形で繋がれるように工夫していきたい
- ・感染防止を図りつつやるべきことを行っていく勇気を持つ

●団体間の連携に向けたワーキンググループについて、参加したいと思うテーマ

- ・地域の見守り、空き家管理サービス等
- ・地域のネットワークの具体的構築
- ・高齢者とのコミュニケーション方法
- ・事前アンケートを行った上で各団体の事業や取組でつながれそうなところをマッチングしたり、関係づくりになりそうな異業種交流からのネットワークづくりの機会になればと思う

●川崎市地域包括ケアシステム連絡協議会についての意見・希望等

- ・具体的に「機能するシステム」に向け、フレームワークを明確にしてほしい